

研究部通信



第 1 号

平成28年
4月12日

いよいよ平成28年度がスタートしました。

初日の職員会において、校長先生から学校教育目標についての説明がありました。本校の学校教育目標は「人と関わりながら自立と社会参加に向けて努力する子どもの育成」と掲げられています。これから本校で展開されていく全ての教育活動のベクトルは、学校教育目標を達成することに向かっていかなければなりません。

さて、子どもたちは一日のうち多くの時間を学校で過ごします。学校で過ごす時間の大半を占めているのが、「授業の時間」です。時間は有限ですので「次の時間にもう一度やれば良い」ということではなく、毎時間の授業が真剣勝負の場であるからこそ、子どものやる気も育っていくのしょうね。

今年度新たなテーマで進めていく予定の研究についても、「授業」を大切にしたい実践的な研究になればと考え、現在、検討を進めており、月末の全体研究会で先生方に提案する予定です。

みんなで充実した研究を進めていけるよう、御協力をよろしくお願いします。

コラム「声かけについて考える」

入学式も終わり、子どもたちの表情や様子から「頑張るぞ」という気持ちが伝わってきます。

さて、高等部生徒が「歓迎の言葉」を練習している様子を見ていた時、周りの先生方から「話すスピードが少し速いかな」という呟きが聞こえてきました。私なら、練習が終わった後、この生徒にどんな声かけをして指導するだろうかということをふと考えてみました。

「話すスピードが少し速すぎるよ」より、「話すスピードが少し速いようだから、もう少しゆっくりと話してみようか」という声かけのほうがより具体的であり、おそらくこの生徒は教師の指示通りに話すスピードを意識して、修正することができるでしょう。

では、『「歓迎の言葉」は、誰に一番届けたい言葉なのかな』はどうでしょうか。生徒自身がそのことを考え、メッセージを伝えたい相手が新入生であることに気づき、自分の話すスピードを修正できたとすれば、その生徒の理解や学びはより深いものになるのだと思います。

昨年度まで取り組んでいた校内研究では、授業における「なぜ?」「なんのために?」を大切にしてきました。昨今、単に教師の指示通りのことができる子どもを育てるのではなく、子どもが自ら考え、判断したり問題を解決したりしていく力を育てていくことが求められています。子どもが考える上で重要な支援となるのが、教師の声かけ、言葉かけです。安易に答えを与えるのではなく、子どもの実態に応じながら、子どもが思考し、行動化できるような促しとなる言葉かけをお互い心がけたいものですね。

研究部メンバーです。一年間、どうぞよろしくお願いします。

研究部長 田中秀明 研究副部長 梶川さとみ

小学部 ◎倉田利江子、梶川さとみ、石原早苗、松本千恵、倉光紘佐

中学部 ◎福安彬、原尚子、石井洋介

高等部 ◎西村佳代、梶川豊代、白水健一郎

訪問学級 ◎亀山朋子

